

4) 記念観光文化交流館視察 2018.11.04 記載(真岡市)

4) 記念観光文化交流館視察 2018.11.04 記載

2018年10月30日、栃木県真岡市を訪れ、標記(ほか)の視察を行いました。

明治、大正期の建築物である旧家(耐火性家屋、久保家等所有)を真岡市が保存を前提に引き取り、美術品展示館、久保貞次郎資料館、土産販売所として利用しています。



その説明では、1957(昭和 32)年には久保貞次郎氏(くぼ さだじろう)(1909～

1996)が家の米蔵をアトリエに改修したものです。久保氏は、美術品の大コレクターでもあり、そのアトリエ内の壁一面にコレクションを陳列しています。展示した作家は、瑛九(えいきゅう)や巖謳(あいおう)、池田満寿夫(いけだ ますお)、磯辺行久(いそべ ゆきひさ)、オノサト・トシノブらがあります。

そのアトリエでは、久保氏が中心となった真岡近代絵画鑑賞頒布会の会場として使用されるなど、久保と交流のあった多くの芸術家たちが集いました。

.....

<所感>

地元で過ごしていた久保貞次郎氏にちなみ、その家族の寄贈があって、この施設が成り立っています。訪れる多くの都市や街で、こうした地元の芸術家、あるいは資産家の寄贈があって、美術館が誕生しています。久保貞次郎氏は多数の有能な芸術家を育てることにもっとも貢献しています。

今回、町田市が作ろうとする美術工芸館は果たしてそうした歴史性があるのでしょうか。大いに、疑問です。

なお、当地、当施設を訪れて気づいたことがありました。久保貞次郎氏は多数の有能な芸術家を育てることに長けていましたが、資料館に掲げられた資料の中に、以下の発見を行いました。



この当主であった、久保貞次郎氏は、「数々の版画家を発掘し、世に送り出した敏腕プロデューサー」とされ、町田市立国際版画美術館長を務めたことが記されています。実際には、写真の説明文の冒頭に町田市立国際版画美術館があることを改めて、その全部を見た次第です。



さらに、実は、その説明文に私が子どものころから知っていた「エスペラント」の言葉を見て、その他の部分に目を移してみたというのが経過でした。

設置された年表を詳しく見ると、久保貞次郎氏は町田市立国際版画美術館の建設委員会委員長に就任され、初代館長に就任された経緯が書かれていました。グッと、親近感を覚えました。



もともと、この場にご案内いただいた方もその知識がなく、久保記念観光文化交流館の方に、私は「町田市」から来ている旨を告げると、親しく思ってくださいました。

思うに、この種の文化施設はこうした篤志家の存在があって成立するものです。
記 町田市議会議員 吉田つとむ 保守の会